

ここ10年ほど記憶にないほどの雪が12月に積もりました。10年程前までは、12月の1週目位からスキーを楽しんでいた思い出はありますが、近年は、12月はまだ冬じゃないでしょう というイメージで暮らしていました。先の大雪の中で除雪しながら、この世界と暮らしが3か月も続くのかと、久しぶりに背筋が寒くなる思いをしましたが、その後、暖かくなり、大地の周辺は、まるで3月の雪解けのようにどろどろの状態となっています。ここ1週間に、真冬と雪解けの季節を味わったように感じます。

さて、いよいよ今年もおしまいが近づいてきました。大地の今の子どもたちは、とにかく明るく、前向きです。陽気で朗らかでファンタジックに生きています。わらべうたや絵本やおはなしのお蔭だと自負しています。特に、わらべうたを、これほど毎日20分以上楽しんでいる子どもたちは幸せだと思っています。ノリが良く、なりきって楽しんでいる姿は、可愛い一言。普段の暮らしの中でも、鼻歌(わらべうた)を歌いながら、「いいよいいよ」「こうしたらいんじゃない」などの前向きの会話が多く、争い事やいらいらしている状況がほとんどありません。



そして、もう一つ、未満児の可愛い子どもたちが3名いるので、皆いつも目を細めて「可愛い可愛い」と言っていて、母親のような眼差しがいつも全体を包んでいることです。だから、小さい子どもたちの非力を認め、許し、大きな気持ちで見守ることができ、これにファンタジックな心が伴い、とても穏やかでありながら、前向きでエネルギー溢れる子どもたちになっています。「お仕事ない?」「薪運び やった〜」などといった歓声を上げ、初めてのクロカンなども、皆ワクワク楽しんでしまう子どもたち。生きる喜び楽しんで生きる人生のあり方を教えてくれる子どもたちです。

【ずくがある】

長野(飯綱町方面か)の方言に「ずくがある ずくなし」というものがあります。「ずくなし」とは、面倒臭がりでごまめに動かないことで、「ずくがある」とは、ごまごまと精力的にいろいろと動き回ることのようです。小さい頃から、近所のおばあさんたちが、良く「ずくあり、ずくなし」という会話をしており、「あの人はずくなしだ」というと、さぼっていてあまり働かない人に対する言葉だったように思えます。この中間に「小ずくがある」という方言もあり、ずくなしとずくありの中間でありながら、どちらかという、良い評価の時に用いられているようでした。農村では、「ずくがある」というのは、やはり評価が高く、農家に限らず、生活の暮らしの中で、様々な事を自分たちで受け持つことが必要だったからでしょう。

現代のように、サービス業が発達して、お金を出せば、何でもやってもらえる世の中では、「ずく」の出番はなくなりますが、反面、そのお金を捻出するために、働かねばなりません。ここで違うのは、働くのは、大部分の人は、ある意味「受動的」「強制的」つまりいやいや働かねばならないイメージがあり、「ずく」を出してやる時は、「積極的」「好きなことを思い通りにやる」的な面があることです。

約25年前、大地の山を切り開いて園舎を建設すると計画した時、道造りから、水道引き、山の造成から、設計無垢の材料や無垢の窓、そして、床面積150坪の家まで作り上げるとなると、どれ位の予算がかかるのだろうと計算しました。坪単価50万円で計算すると、家本体で7500万円、造成その他で1000万円はかかると言われ、諸々で9000万円以上と算出されたのを覚えています。もちろん30歳の夫婦では気の遠くなるような額でしたが、やはり若さと勢いとはおそろしいものですね。では、材料費だけではいくらか(卸価格で計算してみよう)というそろばんをはじいたところ、3分の1以下の予算が算出されました。それでは自分で「ずくを出してやってみよう」「電動工具のない時代でも立派なお城や家が建設されたのだから」「2年間で造れば、年収は3000万円弱だよ」という「絵に描いた餅」気分で作りはじめたから恐ろしいです。でも、働かされていたのではなく、主体的に楽しんで毎日作っていて幸せな時を過ごしました。これ以来、何でも自分でやろうという自信と面白さが身についたように思えます。

自然の中で暮らす、遊ぶ、生み出す暮らしには、「ずく」がないと、十分な満足感や充足感は味わえないような気がします。例えば、家族でキャンプに行く、スキーに行く、山登りに行く、となると、様々な道具や準備をしなければなりません。特に父親が大活躍しないと始まりません。ゴルフに行く、買い物に行くなどは準備が違います。男女共同・イクメンなどと言う言葉が流行り、父親も育児や料理や洗濯などに積極的にかかわろうという風潮になり、素晴らしい世の中になってきており、それはそれで素晴らしい事です。

でも、青山家はちよつと違いました。洗濯も掃除も血洗ひも片付けも、当然の如く皆がやってきました。それは、平等の法則や母親を助けるという面は少なからずありますが、皆でやれば早く終わるし、それだけ遊ぶ時間、やりたいことができる時間が得れる という効率的な要素がありました。雑用は早く皆で終わらせ、メインのためにそれぞれの力を発揮して楽しもうということでした。

週末は早朝から山登りだ、いい天気になってきたからこれからスキーだ となると、掃除は夜やっておこう、洗濯は早朝だ、仕事は終わらしておく、準備は、早朝起きてやろう、朝食準備片付けは皆で などこの一連の過程を皆で受け持つことにより、気軽に、日常的にアウトドアを楽しむ物心両面の体制作りができる、「エイ！」という気持ちがあくなくとも、気軽に遊びに出かけることができます。これらは「プロジェクトマネージメント」能力をつけるのに最適です。どちらにしても、家族皆が小まめに動く、準備する、ずくを出す、そして、究極的には、父親なり母親が音頭を取り、旗を振って、家族皆で協力して準備から片付けまでしていく習慣を、子どもが生まれた時から、家族の習慣を大人主導で作りに上げていくことが、必要だと 我が家では痛感しています。

家族6人でしたが、キャンプも山登りも旅行(6人でホテルやペンションや旅館などの1泊2食付には記憶にないほど泊まった思い出はありませんが、ありました家族6人最後の記念旅行長男が高校卒業して家を出る時、これが家族全員揃っての最後の長い旅行になるだろうという事で、長男の甲子園目指しての夏の大会が予想以上に勝ち進み、日程が決まらず敗れてから急遽決めた2週間のきままなアメリカ旅行は、ホテルに泊まった)もほとんどの楽しみは気軽に味わうことができました。準備が大変だとか時間がないとかお金がないとかという「言い訳」もなく(子どもたちにもこの言い訳はしてほしくない)、皆で「ずく」を出して楽しんできました。

また、いつも外で動的に楽しむだけでなく、内的な暮らし(読書や料理や芸術クラブ活動)もバランスよく楽しんできたのですが、こちら準備や片付けにも膨大なエネルギーがかかるので、ずくが必要になりました。

夢をあきらめること、できない言い訳をすることの合言葉は「時間がない」「お金がない」「大変だ」「どうせ無理」のようです。家族揃って家族を楽しむ人生、子どもと過ごす人生はわずかです。また、子どもが巣立ち、夫婦2人になった時でも、「愛」と同じくらい「ずく」というものは、貴重に宝になっていくと思います。「ずく」はエネルギーです。